

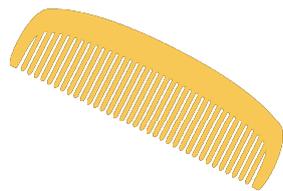
賢い人の贈り物とは？

船引小学校長 安生昌弘

12月になると、もうすぐ冬休み、そしてXmasが楽しみになりますね。Xmasが近づくと私は決まってある物語を思い出します。アメリカ合衆国の小説家、オー・ヘンリーという人が書いた物語です。題名は最後に教えますね。

ある貧しい夫婦がおりました。ジムという夫とデラという妻です。毎日の食事をしていくのが精一杯で自分たちの楽しみに使うお金などはありませんでした。クリスマスが近づいてきました。アメリカではクリスマスに自分の大切な人に贈り物をするをとても大事にします。ジムとデラも相手に秘密で、何とかお金を手に入れて相手の喜ぶ贈り物を買おうとします。

妻のデラは考えました。夫のジムはたった一つの宝物である、金の懐中時計を大切にしている。それは、おじいさんからお父さん、そしてジムへと受け継がれた宝物だけれど、つるす金の鎖がなかったのです。金の懐中時計に金の鎖をつけることができれば、ジムはどんなに喜ぶだろう。そう考えたデラは、自分のものでたった一つ価値のあるもの、自慢の美しい長い髪の毛を、かつらを作って売るといふようなお店でバッサリと切って売ってしまったのでした。自慢の長く美しい髪の毛はなくなってしまったけれど、ジムはきっと喜んでくれるだろうと思いました。



その頃、夫のジムもデラの喜ぶ贈り物を考えていました。デラのたった一つの自慢は長い長い美しい髪の毛でした。その美しい髪の毛をとかす、櫛(くし)をデラはほしがっていました。長く美しい髪の毛をすてきな櫛でとかし、もっと美しくできたなら、デラはどんなに喜ぶだろう。そう考えたジムは、自分のものでたった一つ価値あるもの、金の懐中時計を売ってしまいました。大切な金の懐中時計はなくなってしまったけれど、デラはきっと喜んでくれるだろうと思いました。

こうして二人の贈り物はそれぞれ意味のないものになってしまいました。皆さんは、この夫婦を「愚か者だな」「馬鹿だな」と思いますか。このお話の題名は、実は「賢者(賢い人)の贈り物」とつけられています。愚か者ではなく賢い人だということです。このお話から教えられるのは、「かしこい」とは人の気持ちを思いやりながらよく考えたり、自分がどうしたいかではなく、どうすることが一番よいのかを考えたりすることだということです。そうすれば結果は関係ないのじゃないかということです。

さて、多くの皆はXmasにプレゼントを貰うんじゃないかな？中にはゲーム機やゲームソフト、ネットゲーム課金用のプリペイドカードなんてものをお願いするつもりの方はいませんか。ゲームは皆の頭の中から勉強したことを吸い取ってしまうので、自分の子どものことを思いやる、お家の方はプレゼントしてくれないかも知れません。そんな時は、今日の「賢者の贈り物」の話思い出しましょう。賢くなった皆なら分かりますが、本当に良い贈り物とは相手のことを思いやったモノだからですね。また、プレゼントは玩具ではない場合やプレゼントその物が無い家庭もあるでしょう。家庭それぞれ違うXmasだと思いますが、家族のことを思いやりながら、家族でゆっくり過ごす夜になると良いなあと願っています。

